

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

別添資料10

公表: 2022年3月4日

事業所名: StairYouth Tsukushi

回答者数:職員 5/5 件 回答率:職員 5/5 件(100%)

	チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5件 (100%)			・利用者さんの距離が密にならないようにしている。 ・m数は基準より広く、荷物を整理する等の準備を含めたプログラムに必要なスペースを適切に確保できている。	・今後も、継続する。
	2 職員の配置数は適切である	5件 (100%)			・メンバー数に対するスタッフの配置数は適切である。	・今後も、適切なスタッフ配置数を維持できるよう、人材育成や職場環境の整備に配慮した取り組みを行う。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1件 (20%)	4件 (80%)		・事業所内のフロアは段差の少ない構造となっている。 ・「事業所内外に少し段差がある箇所がある」「多目的トイレがない」「階段が急」等、個別に配慮や支援が必要な場合、その都度相談する。	・安全に移動できる方法をメンバーや保護者と一緒に考え、日々の生活場面で生かせるよう支援する。 ・必要に応じて、階段を使用する場合は手摺りを持つと安全に昇降できることを伝える等、転落や転倒防止に努める。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5件 (100%)			・児童発達支援管理者が中心となって、支援会議を開催。モニタリングや放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している。また、参加スタッフ間で、見直す内容や新たな目標設定等の意見交換している。参加できなかったスタッフには、検討内容や結果を回覧している。	・今後も、継続する。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4件 (80%)	1件 (20%)		・利用満足度調査という形で保護者等からの意見、要望等を確認。支援内容を向上できるように取り組んでいる。	・利用満足度調査への回答が揃っていないため、回答いただきやすい実施方法や実施時期と調査内容を検討し、実施する。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2件 (40%)	2件 (40%)	1件 (20%)	・事業所内に掲示している。 ・保護者へ配付している。	・初年度のため、公開されていないが、今回の自己評価の結果を事業所ホームページへ掲載する。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2件 (40%)	2件 (40%)	1件 (20%)	・現在、第三者評価は受けていない。	・今後、第三者による外部評価の導入の必要性等を検討する。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5件 (100%)			・スタッフのスキルアップを目的とした法人研修を実施している。また、外部研修にも積極的に参加できるよう研修情報を周知し、研修への参加を促している。 ・研修を受講した場合、その内容等を共有している。	・今後も、継続する。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5件 (100%)			・初期面談や体験利用等で、ニーズを具体的に聞きとり、利用希望者の状況を把握し、アセスメントシートを作成し、放課後等デイサービス計画を作成している。また、最低でも年に1度はアセスメントシートやフェイスシートを更新する。	・今後も、継続する。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4件 (80%)	1件 (20%)		・アセスメントシート以外のツールは活用できていないが、プログラムを通して、気づいたことやエピソードをスタッフ間で共有し、行動が起こった状況やその背景、考えられる支援方法等について、意見交換している。	・アセスメントツール導入の必要性について、検討する。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	5件 (100%)			・全スタッフ間で意見交換し、プログラムを立案している。	・今後も、継続する。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5件 (100%)			・週間プログラムの検討時、利用予定メンバーのプログラム参加状況やプログラム中の様子を全スタッフで共有、意見交換している。また、利用当日のプログラムを再確認、意見交換し、実施している。	・今後も、継続する。

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5件 (100%)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常授業終了後、短縮授業終了後、休日それぞれに応じたプログラムを検討し、実施している。</li> <li>・週間のプログラム検討や当日のプログラム確認時にそれぞれのプログラムの目的、ねらいをスタッフ間で共有し、支援している。また、終礼にてプログラムについて、スタッフ間での振り返りを行っている。</li> </ul>	・今後も、継続する。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5件 (100%)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団活動がメインとなっているが、必要に応じて個別活動も組み合わせている。また、集団活動の中でも目標や支援内容を個別に設定して作成している。</li> </ul>	・今後も、継続する
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5件 (100%)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼にて、当日の利用予定、プログラム内容やプログラム中の役割分担を必ず共有している。また、保護者や関係機関等の情報を共有している。</li> </ul>	・今後も、継続する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5件 (100%)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・終礼にて、当日の支援に関する振り返りやメンバーに関する気づき等を共有し、意見交換している。</li> </ul>	・今後も、継続する。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5件 (100%)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3者が読んでも理解しやすく、正しい情報を記録するよう心掛けている。</li> <li>また、支援計画に沿った内容以外でも気づいたことやその対応を経過記録に記入している。</li> <li>・記録漏れ等がないよう複数のスタッフで内容をチェックしている。</li> </ul>	・今後も、継続する。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5件 (100%)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・最低6か月に1回はモニタリングを行い、支援計画の見直しの必要性を判断している。また、状況が著しく変化した等で、見直しが必要となる場合は随時モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しを判断している。</li> </ul>	・今後も、継続する。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5件 (100%)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活や自立生活を支援するための活動(買い物練習・通所練習・ゲーグルマップを活用した移動等)、社会生活や社会経験の幅を広げる活動(企業見学会・障がい福祉サービス事業所見学等)、余暇の提供(休憩時間にタブレットで動画鑑賞・おやつを食べる等、自由な過ごし方を相談して考える・療育ゲーム等)、創作活動(季節に応じた外出・季節感のある制作活動等)を、組み合わせ合わせて支援している。</li> </ul>	・それぞれのプログラムについて、適宜見直しなどを行い、支援の質向上につなげる。
	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5件 (100%)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童発達支援管理責任者と対象メンバーの状況を最も理解しているスタッフが出席している。</li> </ul>	・今後も、継続する。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4件 (80%)	1件 (20%)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自力通所の練習時、担当教諭と学校や事業所での様子を共有している。必要に応じて、メンバーの担当教諭に電話連絡や訪問にて、事業所での様子や支援の方向性を伝えている。</li> <li>・学校の年間計画や行事予定はメンバーから情報をもらっている場合がある。また、事業所の行事予定等は渡せていないため、情報共有については十分とは言えない</li> </ul>	・学校との年間計画、行事予定等の交換を行い、連携を強化する。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		5件 (100%)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師を配置していないため、医療的ケアが必要な方の受け入れはできない。</li> </ul>	・看護師を配置していないため、今後も医療的ケアが必要な方の受け入れは難しい。

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5件 (100%)			・現在、就学前の関係機関と日々の情報共有が必要な方はいないが、必要に応じて情報共有や相互理解を図るための連携を行い、関係を深めていきたいと考えている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1件 (20%)	4件 (80%)		・現在、学校を卒業し、障がい福祉サービス事業所等へ移行した方はいないが、進路検討に係る体験利用を調整する際、受け入れ事業所が求める情報を提供し、体験利用時にも必要に応じて受け入れ事業所への同行などの支援を行っている。 ・今後、障がい福祉サービス事業所等へ移行する方がいる場合、必要な情報を適切に提供する。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1件 (20%)	4件 (80%)		・発達障がい支援センターが開催する研修には参加しているが、支援に関する相談、助言は行っていない。 ・現在、専門機関と連携を必要とするケースはないが、必要に応じて連携する。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		5件 (100%)		・交流活動を行っていない。 ・交流方法の検討や相互理解のため、スタッフの見学は行ったが、具体的な活動の機会は作れなかった。今後、具体的な活動の機会を作りたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1件 (20%)	3件 (60%)	1件 (20%)	・事業所連絡会(すみすみ)に参加している。住吉区こども部会には参加できていない。 ・今後、住吉区こども部会に参加できる機会があれば、参加する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5件 (100%)			・保護者と共通理解を持てるよう、日頃の状況や気になった点等を電話連絡、自力通所練習の待ち合わせ等で、伝えあっている。 ・3月中旬以降に保護者面談を行うため、家庭や事業所での様子などの情報を共有し、発達の状況や目標について、共通理解をもてるように取り組みます。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		5件 (100%)		・必要に応じて、家庭で取り組める環境設定等の相談があれば、保護者に助言している。また、他のサービスの紹介を行っている。 ・日頃から保護者との情報共有を行い、信頼関係を構築しながら、相談しやすい関係づくりに取り組む。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5件 (100%)			・契約時に契約書、重要事項説明書の内容や利用者負担額等を書面を用いて説明している。変更等があれば、書類の配付、説明を必要に応じて行う。 ・今後も継続する。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5件 (100%)			・保護者から相談があった場合、不安や悩みが解消できるよう、できかぎりの助言や支援を行っている。 ・今後も継続する。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5件 (100%)		・現在、保護者会等は開催していない。企業見学会やハローワーク体験会等に来場者として参加する際、参加できる保護者も一緒に参加して下さっている。 ・コロナ感染防止に配慮しながら、保護者同士の連携や情報共有が図れる取り組みを検討する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5件 (100%)			・苦情があった場合は迅速かつ適切に対応できるよう第三者委員の委託等、苦情解決体制を整備している。 ・苦情があった場合は、誠意をもって迅速かつ適切に対応する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5件 (100%)			・SNS、HPや毎月の活動振り返る資料にて、活動等を報告している。また、年間行事予定や行事の都度、事前案内書類で連絡先を含めて知らせている。 ・今後も継続する。
	35	個人情報に十分注意している	5件 (100%)			・契約時に個人情報使用同意書にて、個人情報に当たる書類や情報を説明し、署名をいただいている。また、職員には雇用契約時に秘密保持に関する書類に署名をもらっている。 ・SNS、HP、会報への写真の掲載について、同意書を用いて同意いただいた内容のとおり適切に扱っている。 ・今後も継続する。

非常時等の対応	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5件 (100%)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実物での提示、工程表の作成、筆談等、それぞれの意思疎通や情報伝達に必要な配慮を行っている。</li> <li>・保護者と、電話連絡が取りづらい場合はメールで連絡を取り合う、口頭説明だけでなくメモを渡す等、工夫している。</li> </ul>	・今後も継続する。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5件 (100%)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、地域住民を招待する行事は行えていない。</li> </ul>	・実習生や学生ボランティアの受け入れ等、地域に開かれた事業運営の取り組みを検討する。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3件 (60%)	2件 (40%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者には周知できていないが、マニュアルファイルは閲覧できるように設置している。</li> </ul>	・マニュアルの閲覧ができることを保護者へ周知する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5件 (100%)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回の避難訓練を実施している。</li> <li>・スタッフとメンバーで避難訓練の良かった点や改善点等の振り返りを行い、災害等の理解が深まるよう工夫している。</li> </ul>	・今後も、継続する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5件 (100%)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待防止研修の情報をスタッフに周知し、研修参加を促している。</li> <li>また、法人内の虐待防止委員会で議題となった不適切支援等の情報や検討内容をスタッフへ周知している。</li> </ul>	・事業所での虐待防止に関する勉強会の実施を検討する。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	1件 (20%)	4件 (80%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やむを得ず身体拘束を行う場合は、組織的に切迫性、非代替性、一時性や行動制限が必要となる状況、行動制限の様態及び時間などについて、検討する。検討した内容を子どもや保護者に事前に十分に説明し、同意書にて同意を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載し、行動制限を行った場合は、その様態及び時間、その際のこどもの心身状況並びに緊急やむを得ない理由等、必要な事項を経過記録に記載することとしている。</li> </ul>	・現在、身体拘束は行っていないが、必要となる場合は、左記のとおり十分な検討と説明を行い、同意を得た上で支援する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1件 (20%)	4件 (80%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギーの種類や対応が必要な内容について、保護者へ確認及び相談している。また、フェイスシートに確認した情報を記入している。</li> </ul>	・必要に応じて、医師の指示書を確認し、対応する。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4件 (80%)	1件 (20%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて、ヒヤリハットを作成し、事業所内で共有している。</li> </ul>	・ヒヤリハット事例集を作成し、定期的に振り返ることができる取り組みを検討する。	